

第1回 | Benesse[®] 教育研究開発センター
Benesse Educational Research and Development Center

中学校英語に関する 基本調査〔教員調査〕

中学校における英語教育の実態や教員の思いとは――

速報版

Benesse Corporation

調査概要

■ 調査テーマ

公立中学校における英語教育の実態と教員の意識

■ 調査方法

郵送法による質問紙調査

■ 調査時期

2008年7月～8月

■ 調査対象

全国の公立中学校の英語教員3,643名

(配布数 9,322通、回収率 39.1%)

* 全国の公立中学校の、英語科の主任に回答を依頼した。

■ 調査項目

〈指導や活動について〉

指導形態、外国語指導助手(ALT)の授業参加頻度、
外国語指導助手(ALT)の授業への関わり方、指導
と活動の割合、4技能(読む、聞く、書く、話す)の割
合、授業における指導方法、英語を使用する割合、
指導する際に重要なこと・実行していること、教材、
教科書の取り扱い、宿題、評価、生徒のつまずき

〈教員の意識や自己研鑽〉

研修参加状況、役に立った研修、受けたい研修、自
己研鑽、悩み、英語科の教員として重要なこと、英語
を指導する際に大切にしていること

〈小学校英語について〉

小学校英語の経験がある生徒の割合、小学校英語
との関わり、小学校英語の効果などに対する意見、
小中連携について

CONTENTS

調査概要	2
回答者・勤務校の特性	3
1. 指導の実態	
英語の使用割合・指導と活動の割合	4
指導方法	5
指導で重要なこと・実行していること	6
教材	8
宿題	9

2. 指導に関する教員の意識	
生徒のつまずき	10
悩み	11
受けたい研修と自己研鑽	12
英語科の教員として重要なこと・ 英語の指導で大切なこと	13
3. 小学校英語との関わり	
校区の小学校英語との関わり	14
小学校英語についての考え方	15

回答者・勤務校の特性

回答者の特性



勤務校の特性

全校生徒数 (%)

全校生徒数	割合
100人以下	19.2
101~200人	16.5
201~300人	14.7
301~400人	15.6
401~500人	12.3
501~600人	8.6
601~700人	6.9
701人以上	5.0
無回答・不明	1.2

勤務校の特徴

「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%



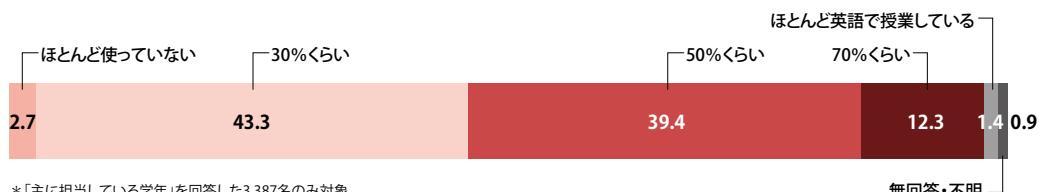
1. 指導の実態

英語の使用割合・指導と活動の割合

ふだんの授業で、半分以上英語を使用している教員は5割以上。教員が指導する時間の方が長い「指導型」は全体の約2分の1、生徒が活動する時間の方が長い「活動型」は約4分の1を占める。

Q ふだんの授業において、あなたが英語をご使用になる割合はどれくらいですか。

図1-1 英語使用割合

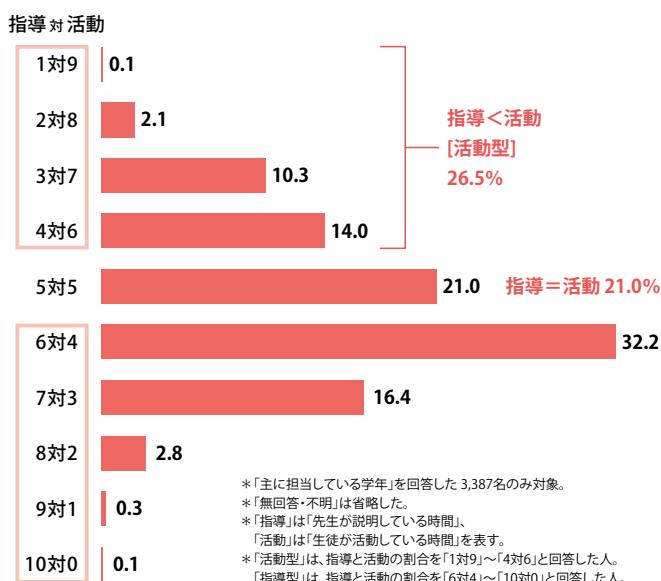


*「主に担当している学年」を回答した3,387名のみ対象。

(%)

Q 授業で、先生が説明している時間と、生徒が活動している時間の割合は、平均してどれくらいですか。

図1-2 指導と活動の割合



*「主に担当している学年」を回答した3,387名のみ対象。
*「無回答・不明」は省略した。
*「指導」は「先生が説明している時間」、
「活動」は「生徒が活動している時間」を表す。
*「活動型」は、指導と活動の割合を「1対9」～「4対6」と回答した人。
*「指導型」は、指導と活動の割合を「6対4」～「10対0」と回答した人。

表1-1 指導と活動の割合(年齢別)

	30歳以下 n=524	31～40歳 n=1,160	41～50歳 n=1,241	51歳以上 n=429
指導＜活動	22.1	25.4	28.4	29.4
指導＝活動	23.9	20.0	21.9	17.7
指導＞活動	53.4	54.0	49.3	51.5

*「主に担当している学年」を回答した3,387名のみ対象。

*「30歳以下」は「25歳以下」「26～30歳」の合計。

*「51歳以上」は「51～60歳」「61歳以上」の合計。

*「無回答・不明」は省略した。

英語を使用する割合についてたずねたところ、5割以上の教員は授業において半分以上英語を使用している。また、授業中に教員が指導する時間と生徒が活動する時間との割合についてたずねたところ、生徒が活動する時間の方が多い

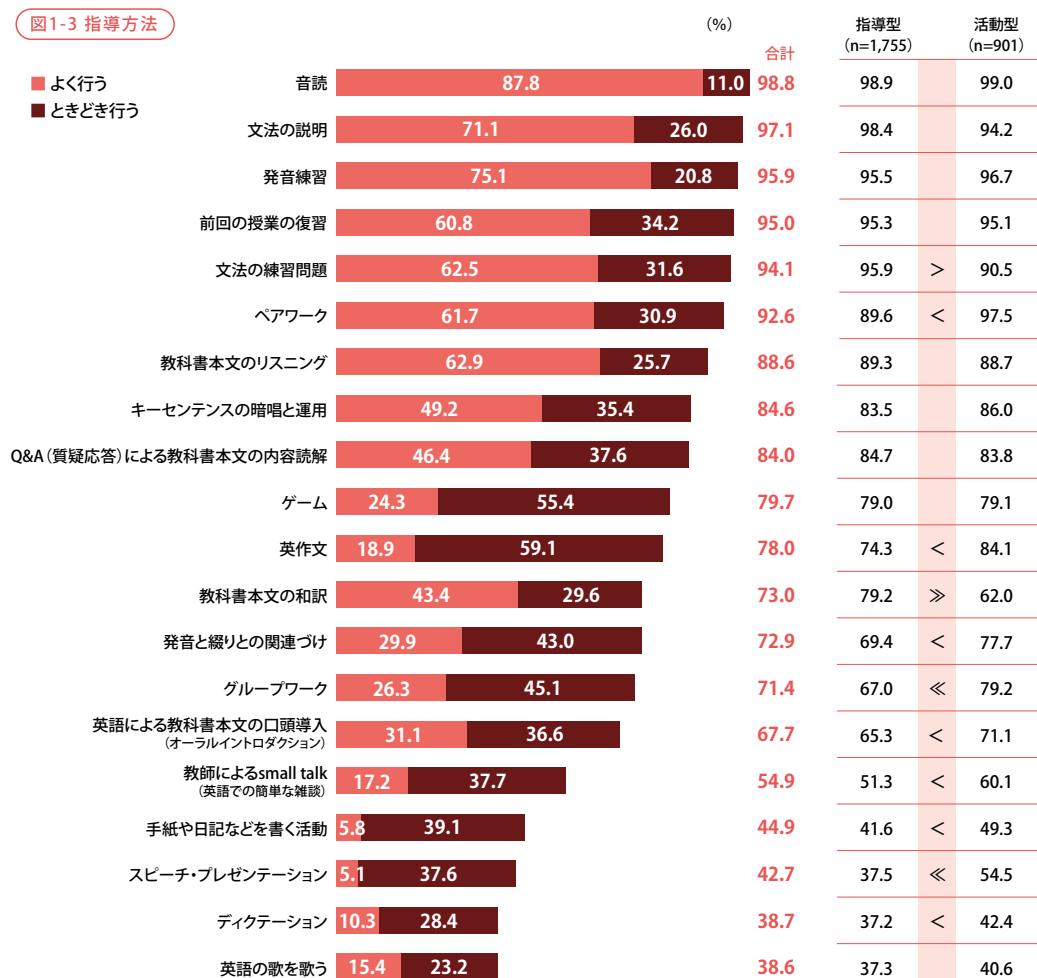
「活動型」は26.5%、教員が指導する時間の割合の方が多い「指導型」は51.8%と「指導型」の方が多い。さらに年齢別にみると、年齢の低い教員よりも年齢の高い教員の方が「活動型」の割合が高い。

指導方法

「音読」「文法の説明」「発音練習」「前回の授業の復習」などはほとんどの教員が行っている。「指導型」「活動型」によって、行う指導方法に違いがみられる。

Q あなたは、授業において、次のようなことをどれくらい行いますか。

図1-3 指導方法



*「主に担当している学年」を回答した3,387名のみ対象。

*「よく行う」+「ときどき行う」の%。

*「指導=活動」無回答・不明は省略した。

*<<は10ポイント以上。

<>は5ポイント以上差があるもの。

授業中に行う指導方法についてたずねたところ、「音読」「文法の説明」「発音練習」「前回の授業の復習」「文法の練習問題」「ペアワーク」を「行う(よく+ときどき)」という回答がいずれも9割以上多い。また、指導と活動のタイプ別にみると、「指導型」の教員

は「教科書本文の和訳」や「文法の練習問題」を行う割合が高く、一方で、「活動型」の教員は、「スピーチ・プレゼンテーション」「グループワーク」「英作文」「教師によるsmall talk(英語での簡単な雑談)」などを行う割合が高いなど、指導方法に違いがみられる。

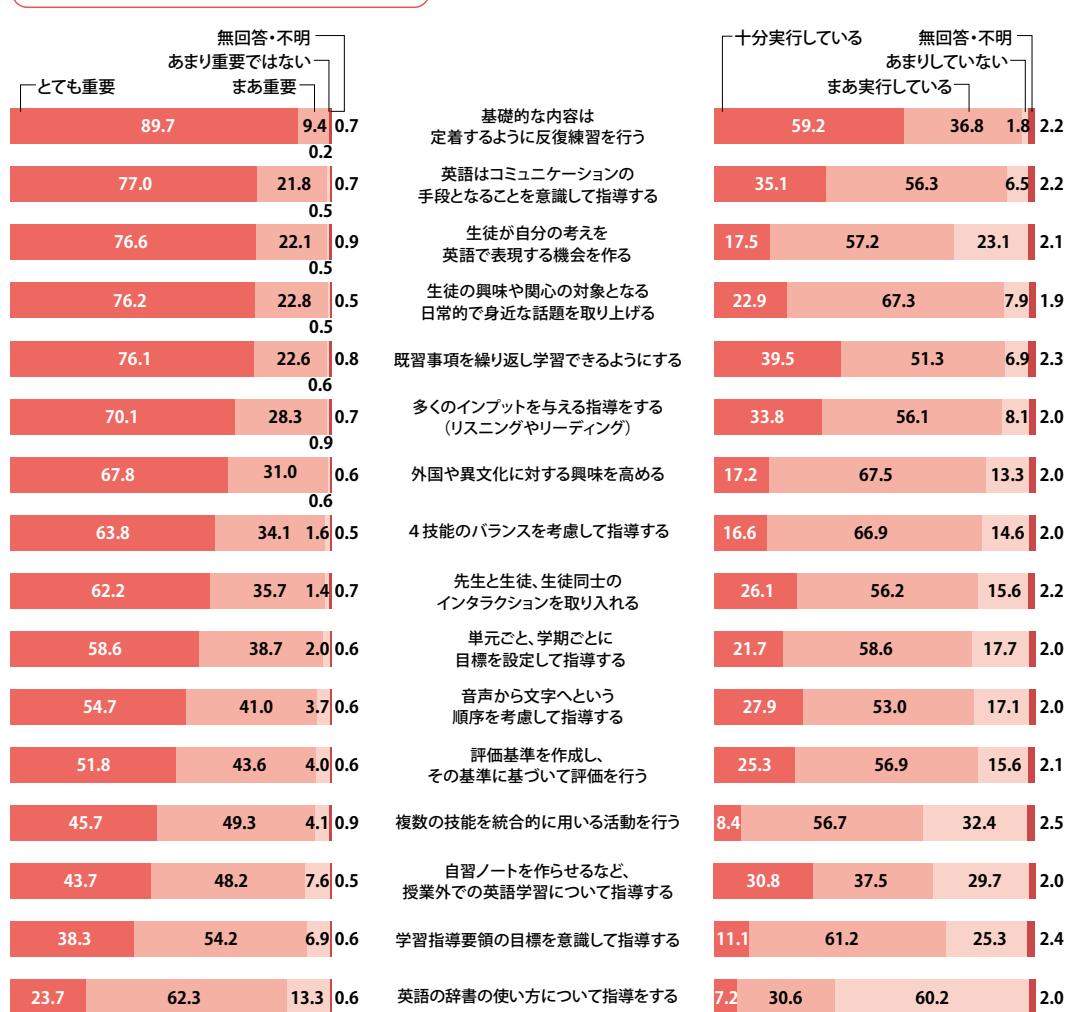
指導で重要だと思うこと・実行していること

「基礎的な内容は定着するように反復練習を行う」は、約9割が「とても重要」と感じており、「十分実行している」割合ももっと高い。

Q

①中学生に英語を指導する際、次のことはどれくらい重要だと思いますか。また、②それぞれについてあなた自身はどの程度実行していますか。

図1-4 指導で重要だと思うこと・実行していること



*「主に担当している学年」を回答した3,387名のみ対象。

英語を指導する際に、重要だと思うことと、実行していることについてたずねたところ、「基礎的な内容は定着するように反復練習を行う」を「とても重要」と回答した割合が89.7%ともっと高く、「十分実行している」という回答も59.2%ともっと

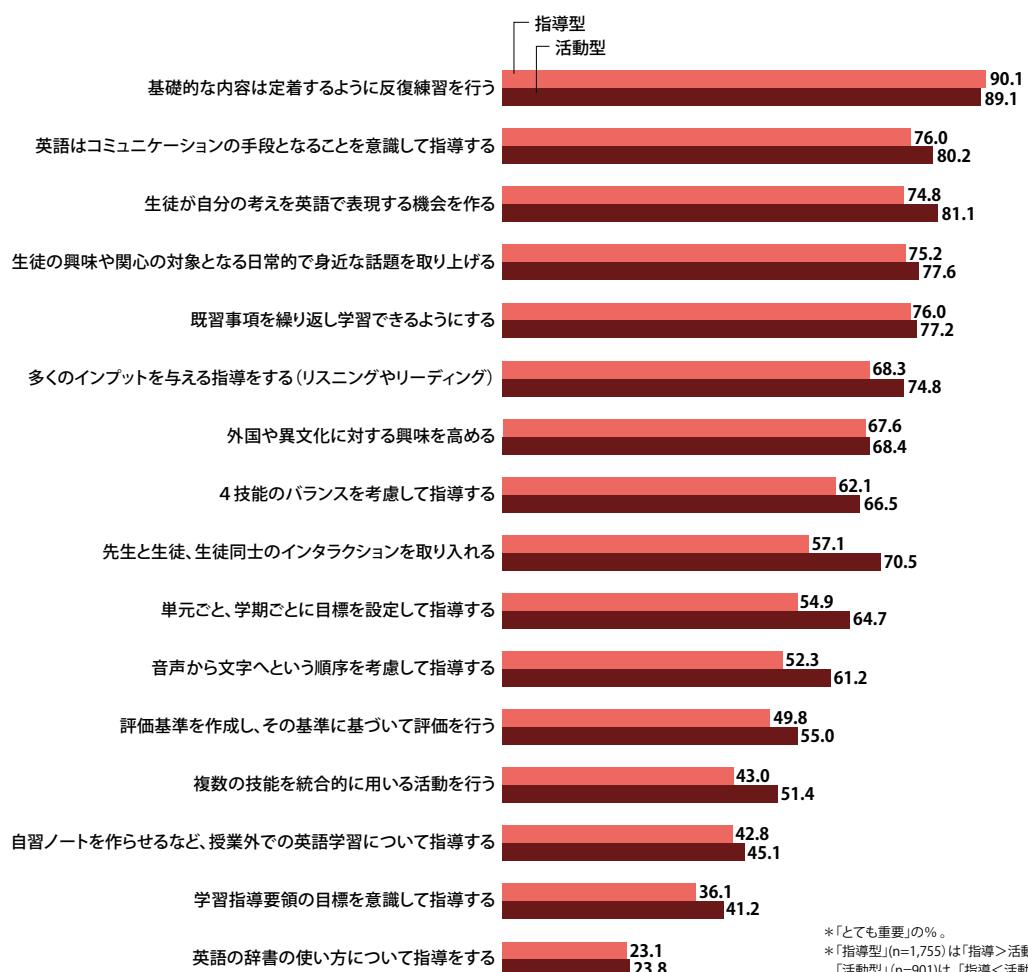
も高かった。ただし、指導によっては「とても重要」の割合と「十分実行している」の割合との間にギャップがあり、重要なことをいつも十分に実行できていないものもある。

英語を指導する際に重要なことについては「指導型」「活動型」別に違いがみられ、とくに「先生と生徒、生徒同士のインタラクションを取り入れる」でその差が大きい。

Q 中学生に英語を指導する際、次のことはどれくらい重要だと思いますか。

図1-5 指導で重要なこと（指導型・活動型別）

(%)



*「とても重要」の%。
*「指導型」(n=1,755)は「指導>活動」、「活動型」(n=901)は「指導<活動」。

指導の際に重要なことについて指導方法のタイプ別にみると、「指導型」「活動型」で重要なことについて差がみられた。「とても重要」の比率でみると、「先生と生徒、生徒同士のインタラクションを取り入れる」で差が大きく、

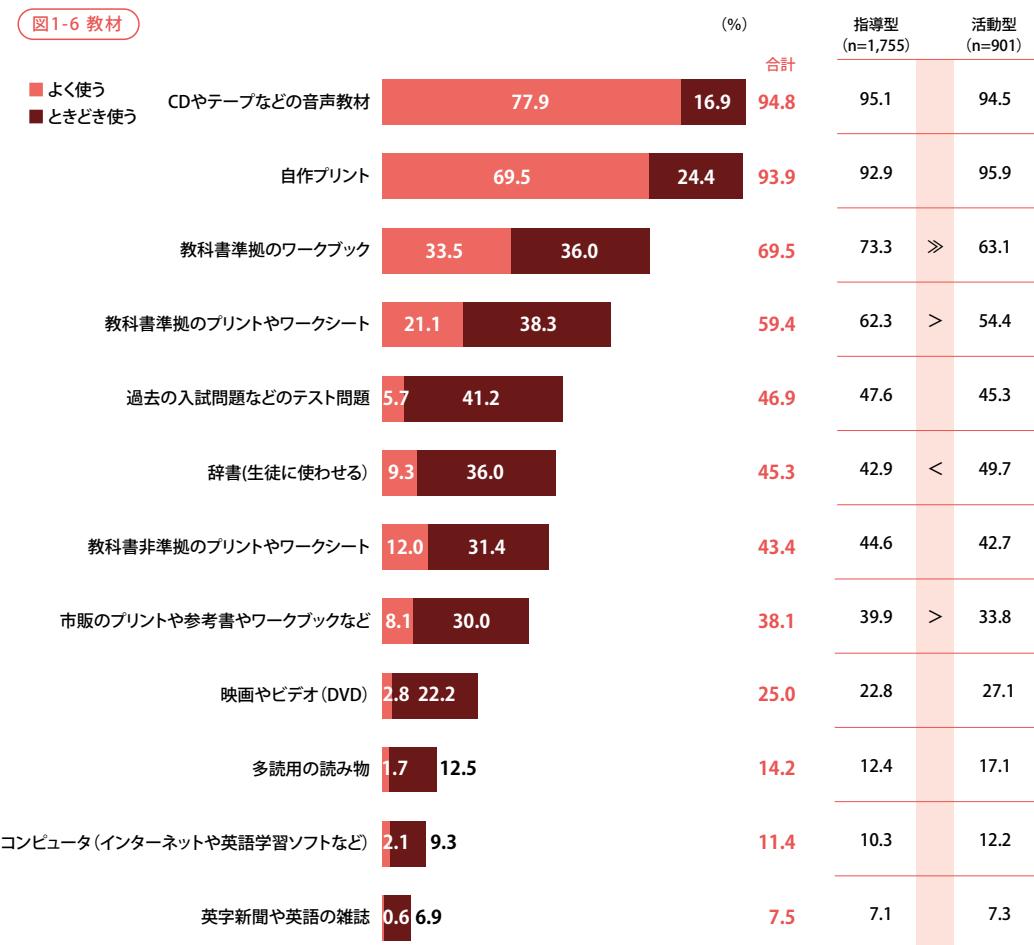
次いで「単元ごと、学期ごとに目標を設定して指導する」「音声から文字へという順序を考慮して指導する」「複数の技能を統合的に用いる活動を行う」などで「活動型」の方が「とても重要」という回答が多かった。

教 材

よく使う教材として、9割以上の教員が「CDやテープなどの音声教材」や「自作プリント」をあげている。

Q あなたは、授業のなかで次のような教材をどれくらい使用しますか。

図1-6 教材



*「主に担当している学年」を回答した3,387名のみ対象。

*「よく使う」「ときどき使う」の%。
*「指導=活動」「無回答・不明」は省略した。
*«、»は10ポイント以上。
<、>は5ポイント以上差があるもの。

授業のなかで使う教材についてたずねたところ、「CDやテープなどの音声教材」、「自作プリント」で「使う(よく+ときどき)」割合が9割以上と高かった。次いで、「教科書準拠のワークブック」が7割程度だった。一方、「英字新聞や英語の雑誌」という回答は1割に満たず、「コンピュータ

(インターネットや英語学習ソフトなど)」も1割程度と低い。指導方法のタイプ別にみると、「指導型」では「教科書準拠のワークブック」「教科書準拠のプリントやワークシート」「市販のプリントや参考書やワークブックなど」が高く、「活動型」では「辞書(生徒に使わせる)」が高い。

宿題

宿題を「授業のたびに出す」教員は5割以上。

1回あたりの宿題にかかる時間は20~30分程度が約8割。

Q あなたは、どれくらいの頻度で宿題を出していますか。

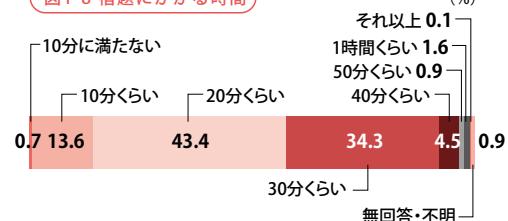
あなたが出す宿題は、平均的な生徒にとって1回何分くらいの量になりますか。

図1-7 宿題の頻度



*「主に担当している学年」を回答した3,387名のみ対象。

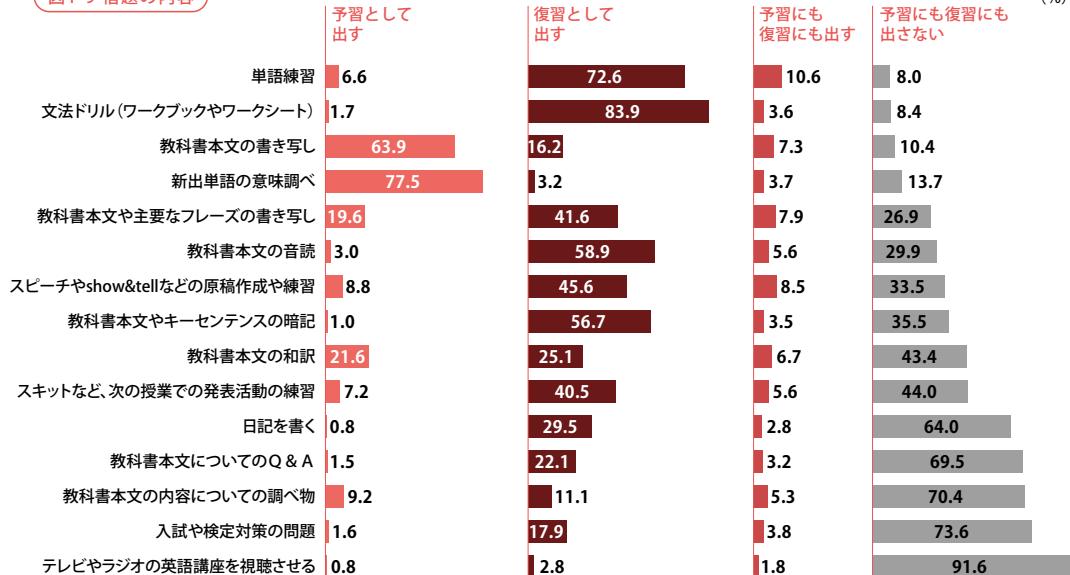
図1-8 宿題にかかる時間



*「主に担当している学年」を回答し、かつ、「宿題の頻度」を「授業のたびに出す」～「月に1回くらい出す」と回答した3,221名のみ対象。

Q 宿題としてどのような内容のものをお出していますか。

図1-9 宿題の内容



*「主に担当している学年」を回答し、かつ、「宿題の頻度」を「授業のたびに出す」～「月に1回くらい出す」と回答した3,221名のみ対象。

*「無回答・不明」は省略した。

宿題の頻度についてたずねたところ、「授業のたびに出す」が54.6%と過半数を占めた。1回あたりの宿題にかかる時間については「20分くらい」「30分くらい」が合わせて約8割だった。また、宿題の内容についてたずねたところ、予習として出す宿

題では「新出単語の意味調べ」(77.5%)や「教科書本文の書き写し」(63.9%)、復習として出す宿題では「文法ドリル(ワークブックやワークシート)」(83.9%)や「単語練習」(72.6%)が多い。全体的に、宿題は予習よりも復習として出す方が多いようだ。

2. 指導に関する教員の意識

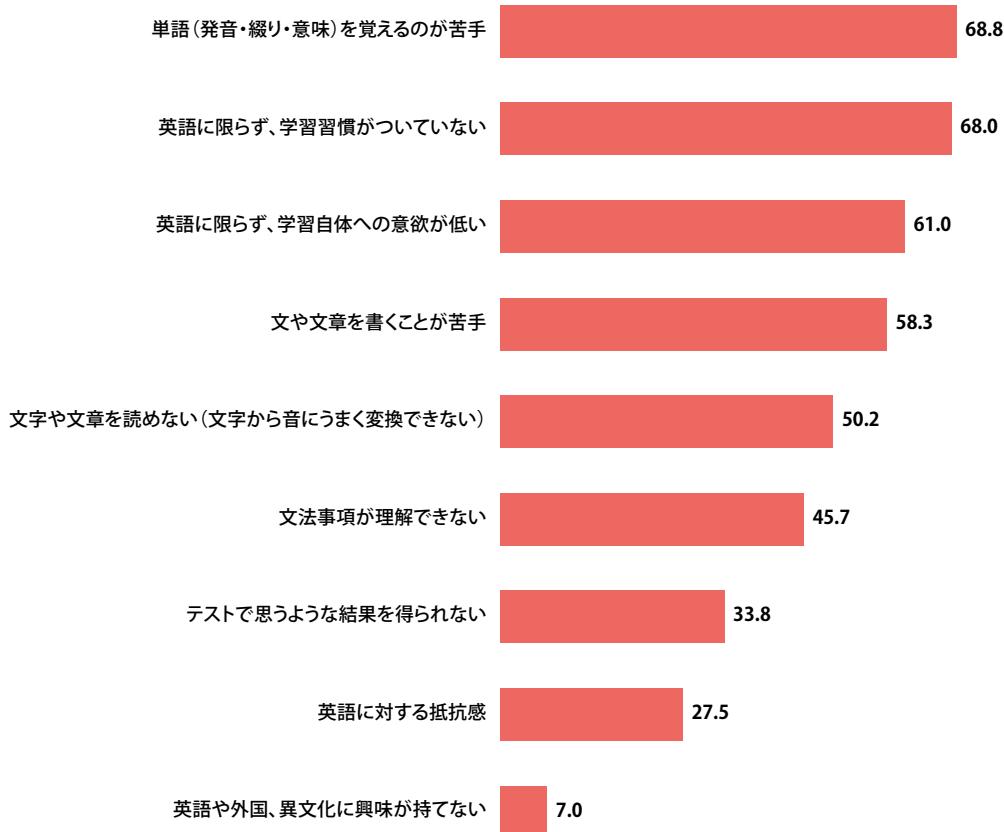
生徒のつまずき

英語教員は、生徒の英語学習のつまずきの主な原因是、「単語(発音・綴り・意味)を覚えるのが苦手」「英語に限らず、学習習慣がついていない」ととらえている。

Q 英語に対して苦手意識やつまずきを感じている生徒は、どのようなことが原因だと思いますか。

(図2-1 生徒のつまずき)

(%)



*n=3,643

*「とてもあてはまる」の%。

英語に対する苦手意識やつまずきを感じている生徒は、どのようなことが原因だと思うかをたずねたところ、「単語(発音・綴り・意味)を覚えるのが苦手」「英語に限らず、学習習慣がついていない」「英語に限らず、学習自体への意欲が低い」が6割

以上と高かった。次いで、「文や文章を書くことが苦手」「文字や文章を読めない(文字から音にうまく変換できない)」も5割を越えた。一方、「英語や外国、異文化に興味が持てない」は低く、1割に満たなかった。

悩み

「生徒に学習習慣が身についていない」「授業準備の時間が十分にとれない」という悩みが約8割と高い。また、年齢が低い教員ほど悩みが多い。

Q あなたは、次のような悩みをどれくらい感じていますか。

図2-2 悩み

			(%)	合計	30歳以下 (n=560)	31~40歳 (n=1,238)	41~50歳 (n=1,331)	51歳以上 (n=478)
生徒に学習習慣が身についていない	33.7	47.0	80.7	80.7	81.2	80.8	79.7	
授業準備の時間が十分にとれない	42.6	38.1	80.7	80.9	83.4	80.3	>	74.0
生徒間の学力差が大きくて授業がしにくい	32.6	43.5	76.1	73.4	77.1	76.1		77.2
教科指導以外の校務分掌の仕事が負担である	38.1	36.0	74.1	69.5	<	76.2	75.2	70.8
コミュニケーション能力の育成と、入試のための指導を両立させることが難しい	28.1	41.0	69.1	80.7	>	74.1	»	63.1
年間の授業時数が足りない	28.4	39.0	67.4	57.1	<	66.7	69.8	74.7
生徒の学習意欲が低い	21.0	40.1	61.1	56.6		59.7	63.1	65.1
自分自身の英語力が足りない	15.9	44.8	60.7	66.9		63.7	60.1	»
効果的な指導方法がみづからない	8.0	40.2	48.2	60.1	»	49.9	>	44.7
教材・教具が十分ではない	10.5	32.7	43.2	49.3	>	43.4	42.9	>
十分な研修が受けられない	10.4	30.8	41.2	45.2		42.6	40.8	>
英語に苦手意識がある生徒の指導が負担である	5.1	26.0	31.1	30.7		29.4	31.5	34.3
教員間のコミュニケーションが少ない	6.9	21.6	28.5	28.6		30.0	28.1	24.7
中期的・長期的な授業計画を立てる方法が分かららない	4.1	22.9	27.0	45.2	»	29.0	>	21.9
クラスコントロールすることが難しい	3.9	15.1	19.0	24.4	>	17.5	18.2	18.4
評価方法が分からない	1.2	13.4	14.6	22.8	>	15.1	12.4	8.6
授業をすることが楽しくない	1.4	10.4	11.8	11.6		11.8	12.1	10.9

■ とてもそう思う

■ まあそう思う

*「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

*「30歳以下」は「25歳以下」「26~30歳」の合計。

「51歳以上」は「51~60歳」「61歳以上」の合計。

*«»は10ポイント以上。

<>は5ポイント以上差があるもの。

* n=3,643

悩みについてたずねたところ、「生徒に学習習慣が身についていない」「授業準備の時間が十分にとれない」で「そう思う（とても+まあ）」という回答が80.7%ともっと高く、「生徒間の学力差が大きくて授業がしにくい」がこれに続く。また、悩

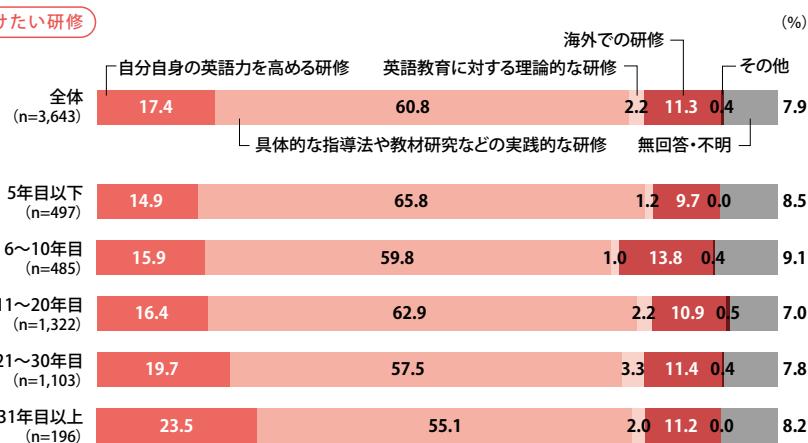
みには、教員の年齢によって違いがみられるものとみられるものがあるが、総じて若い教員の方が悩みが多い傾向があり、とくに、「中期的・長期的な授業計画を立てる方法が分からぬ」「効果的な指導方法がみづからない」が高い。

受けたい研修と自己研鑽

教職経験年数にかかわらず、教科の指導力を高めるために受けたい研修は、「具体的な指導法や教材研究などの実践的な研修」が6割前後。

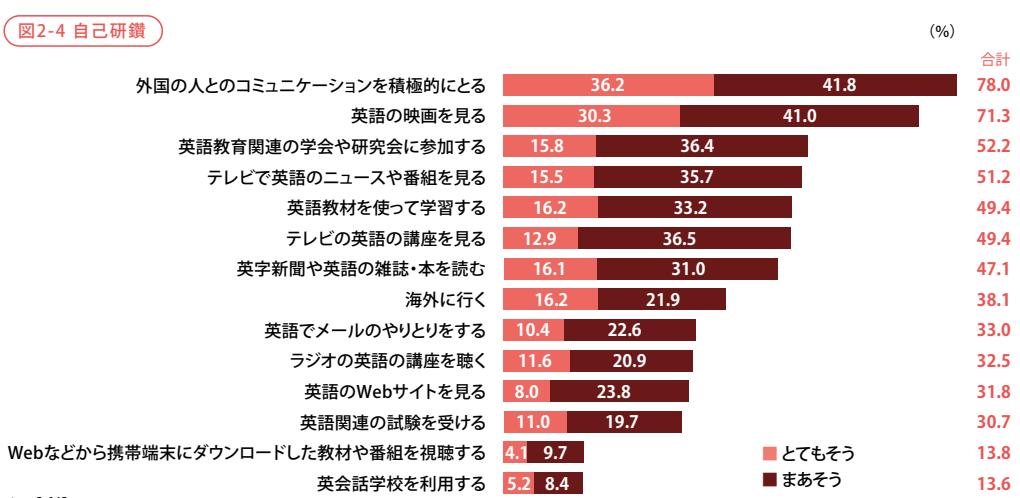
Q 教科の指導力を高めるために、あなたはどのような内容の研修を受けたいと思いますか。

図2-3 受けたい研修



Q 英語力の向上または維持のために、自己研鑽として行っていることがありますか。

図2-4 自己研鑽



英語の教員が教科の指導力を高めるために受けたいと思っている研修は、「具体的な指導法や教材研究などの実践的な研修」が約6割と一番高い。また、教職経験年数が長くなるほど、「自分自身の英語力を高める研修」を受けたいと考える割

合が高くなる。一方で、教員が自己研鑽として行っていることは、「外国人とのコミュニケーションを積極的にとる」「英語の映画を見る」が7割台（「とても+まあそう」の合計）と高く、それ以外の項目は5割台以下だった。

英語科の教員として重要なこと・英語の指導で大切にしていること

9割の教員が「教科指導力」を英語科の教員として一番重要なことだと考えている。また、中学生に英語を指導するにあたって大切なことは「生徒が英語を好きになるように指導する」がもっとも高い。

Q 英語科の教員として、何が重要だと思いますか。

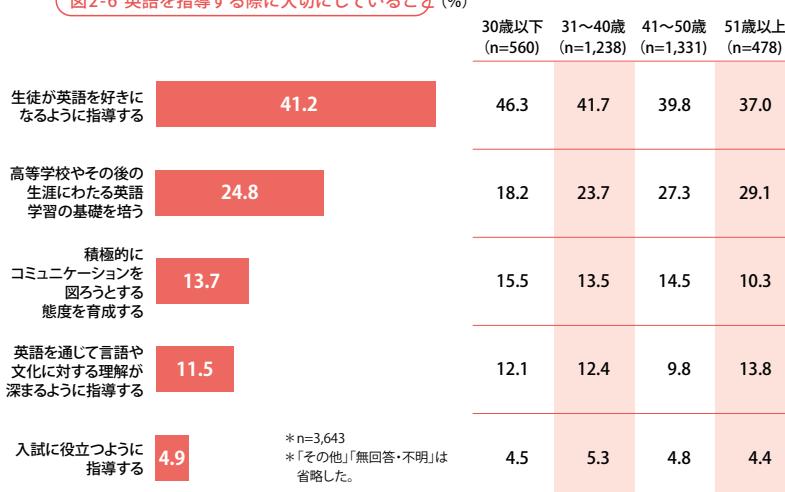
図2-5 英語科の教員として重要なこと (%)



英語科の教員として重要なことについてたずねたところ、もっとも高かったのは「教科指導力」(90.0%)、次いで「授業を運営する力」(74.8%)だった。いずれも年齢が高い教員の方が、重要な割合がやや高い。一方で、「英語の授業以外の場面での教員と生徒の関係性」について重要な割合は、年齢が低い教員の方が高い。

Q 中学生に英語を指導するにあたって、どのようなことをもっとも大切にしていますか。

図2-6 英語を指導する際に大切にしていること (%)



中学生に英語を指導するにあたって大切なことについてたずねたところ、「生徒が英語を好きになるように指導する」がもっとも高く、年齢が低い教員ほどその割合が高い。次いで「高等学校やその後の生涯にわたる英語学習の基礎を培う」が高かったが、これは年齢が高い教員ほどその割合が高い。教員の年齢によって指導をする際に大切にしていることに違いがみられる。

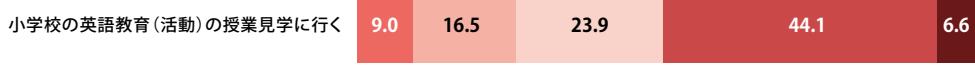
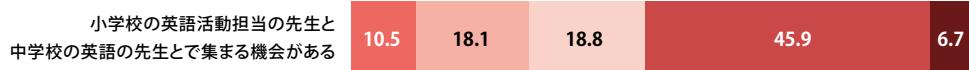
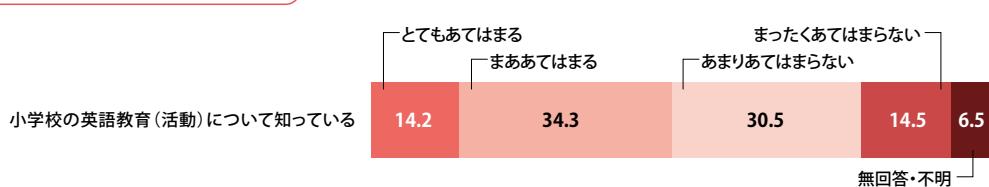
3. 小学校英語との関わり

校区の小学校英語との関わり

校区内の小学校で行われている英語教育(活動)について「知っている(とても+まあ)」中学校の英語教員は48.5%と半数以下。

Q 貴校の校区内の小学校で行われている英語教育(活動)についてうかがいます。

(図3-1 校区の小学校英語との関わり)



*n=3,643

校区内の小学校で行われている英語教育(活動)についてたずねたところ、「小学校の英語教育(活動)について知っている」に「あてはまる(とても+まあ)」と回答したのは48.5%と半数以下だった。一方で、「小学校で授業をすることがある」

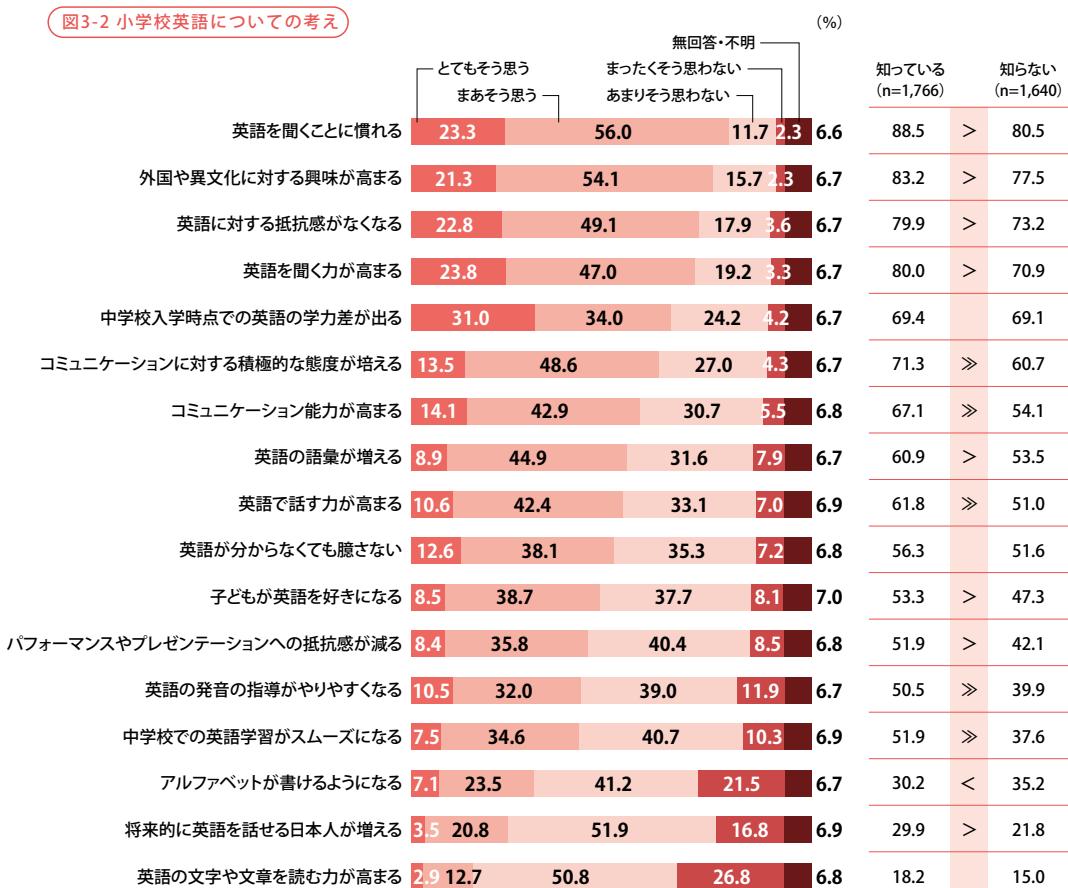
や「中学校での英語の授業の導入ややり方を小学校に合わせて変えている」について、「あてはまる(とても+まあ)」と回答したのは1割台にすぎない。

小学校英語についての考え方

中学校の英語教員の約8割が、小学校英語の効果として「英語を聞くことに慣れる」をあげている。

Q 小学校における英語教育(活動)についてどのようにお考えですか。

図3-2 小学校英語についての考え方



* n=3,643

*「小学校の英語教育(活動)について知っている」に対して、「あてはまる(とても+まあ)」という回答を「知っている」、「あてはまらない(あまり+まったく)」という回答を「知らない」としている。
* <>は10ポイント以上、<>>は5ポイント以上差があるもの。

小学校における英語教育(活動)についての考え方をたずねたところ、「そう思う(とても+まあ)」という回答がもっとも多いのは「英語を聞くことに慣れる」で79.3%と高く、次いで「外国や異文化に対する興味が高まる」「英語に対する抵抗感がなくなる」「英語を聞く力が高

まる」も7割台だった。さらに「中学校入学時点での英語の学力差が出る」に対しても肯定する回答が6割以上だった。また、小学校英語に対する認知度別にみると、小学校英語について「知っている」教員の方が、「知らない」教員よりも、肯定的な意見が多い傾向にある。

第1回中学校英語に関する基本調査(教員調査)

調査企画・分析メンバー

吉田 研作 上智大学教授
根岸 雅史 東京外国語大学教授
酒井 英樹 信州大学准教授
鈴木 利彦 早稲田大学専任講師
工藤 洋路 東京外国語大学専任講師
重松 靖 国分寺市立第五中学校副校長

沓澤 糸 Benesse 教育研究開発センター主任研究員
福本 優美子 Benesse 教育研究開発センター研究員
初海 真理子 Benesse 教育研究開発センター研究員

※所属・肩書きは、刊行時のものです。

【第1回中学校英語に関する基本調査(生徒調査)速報版】2009年7月刊行予定

【第1回中学校英語に関する基本調査報告書】2009年12月刊行予定

生徒調査の速報版を2009年7月に刊行する予定です。また、本調査(教員調査・生徒調査)の詳細な分析をまとめた報告書を、2009年12月に刊行する予定です。これらの冊子をご希望の方は、直接、Benesse教育研究開発センターまでお申し込みください。(なお、これらの冊子は、書店ではお買い求めにはなれません。)

Benesse教育研究開発センターのWEBサイトのご案内

Benesse教育研究開発センターで実施している各種調査結果は、以下のWEBサイトにてご覧いただけます。

Benesse教育研究開発センター ➤ <http://benesse.jp/berd/>

お問い合わせやご注文はこちらまでどうぞ

〒163-1422 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー22階

(株)ベネッセコーポレーション Benesse教育研究開発センター 英語教育研究室

「第1回中学校英語に関する基本調査」係

TEL : 03-5371-1244 (10:00~17:00／土日祝日を除く)